

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37374
事業名	課題探究的な学習モデル研究費					
評価担当課	所属名	教)学校教育部 教育推進課				
	課長名	石田 建志	担当者名	石郷岡 徹	電話番号	011-211-3851
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	開成中等教育学校において、国際バカロレアの教育プログラムや一人一台端末等の活用により課題探求的な学習を推進し、豊かな国際感覚や課題解決能力等を身に付けたグローバル人材の育成を目指すとともに、新たな学習モデルとして確立し、他の市立学校への普及を進める。			
		長期	開成中等教育学校で確立した課題探究的な学習モデルを市立学校全体で共有することにより、市立学校全体の課題探求的な学習の充実を目指す。			
	取組内容	市立札幌開成中等教育学校において、①国際バカロレアの教育プログラムの導入に向けたカリキュラムの作成、②外国人講師の配置、③国際バカロレア機構が主催する研修会(ワークショップ)への教員の参加、④生徒が授業で活用するタブレット端末の整備及び校内の無線LAN環境の構築を行う。				
実施結果	【必要性】 社会の急速な変化に対応するため、豊かな国際感覚や課題解決能力等を身に付ける必要があり、これらの力を育成するための効果的で継続性のある新たな学習モデルの確立が必要である。 【効果】 新たな学習モデルを確立し、市立学校でその成果を共有することにより、札幌市全体で豊かな国際感覚や課題解決能力等を身に付けたグローバル人材を効果的に育成できる。					
事業実施における工夫点	開成中等教育学校においては従来入学時に生徒が端末を購入し、同校独自にインターネット環境の整備等を行っていたが、市立小中学校全体でGIGAスクール構想に伴う一人一台端末の整備がなされたことに伴い、令和3年度入学生から端末の整備、設定管理等を同校から切り離し、ICT環境整備に係る費用を削減。					
対象者	市立学校生徒	開始	平成27年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	学校教育法					
他都市の状況	政令市においては令和3年度現在で14校が中高一貫校を設置。また、国際バカロレア(IB)については、国公立では、14校が認定を受けているほか、熊本市においても認定校設置の検討が進められている。私立も含めると、令和3年12月31日時点で全国で53校がIB認定を受けている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	24,000	22,000	14,217	20,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	1.0	1.0	1.0	1.0	
人件費	7,200	7,200	7,200	7,200	
計(事業費+人件費)	31,200	29,200	21,417	27,200	
事業費の内訳	令和3年度決算	IBカリキュラム導入3,003千円(IB評価訪問603千円、IB年会費2,259千円など) ICT環境整備10,951千円(ソフトウェアライセンス料6,131千円など) その他263千円			
	令和4年度予算	IBカリキュラム導入6,171千円(ワークショップ受講料1,750千円、IB年会費1,981千円など) ICT環境整備13,829千円(ソフトウェアライセンス料5,187千円など)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	タブレット端末活用台数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	1060	1060	1060	1060	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	86%	80%	59%	70%	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	国際バカロレアの認定を受け、国際バカロレアの教育プログラムを活用したカリキュラムによる授業の実施、国際バカロレア機構主催の研修への教員の参加、タブレット端末を活用した授業の実践等を計画どおり実施しており、モデル研究6年目の目的は達成できたと考える。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	教員の研修参加数、タブレット端末の活用数、無線LAN環境の整備の程度は、課題探究的な学習モデルの研究に必要かつ適切な規模である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	豊かな国際感覚や課題解決能力等を身に付けたグローバル人材の育成を目指す開成中等教育学校において、「探究型の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する国際的な教育プログラム」である国際バカロレアの教育プログラムを活用しながら、課題探究的な学習の充実を図ることは適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	生徒へのアンケート調査の結果では、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力など、課題探究的な学習に関連する項目について、肯定的な回答の割合が高く、生徒の満足度は高いと考えられる。コロナ禍にあっても海外大学進学者を複数輩出するなど、学校が目指す豊かな国際感覚や課題解決能力等を身に付けたグローバル人材の育成が図られている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	開成中等教育学校における国際バカロレアのカリキュラムを活用した課題探究的な学習モデルの成果が他の学校に浸透できるように、教育委員会の担当課と学校とが協力しながら、組織的に成果を波及できるよう支援していく。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	当初の計画どおり、効率的かつ適切に事業を実施できている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 開校から一定の期間が経過したことから、中等教育学校設置・国際バカロレア導入に係る評価・検証が必要。中高一貫校基本構想が掲げる目標等の実現度や国際バカロレア導入に伴う教育効果等について、外部委員等による評価・検証を行う。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 外部委員等による評価・検証を行うための検討委員会開催のため拡充。		見直し効果額	0